

東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本欣久	前期 金曜日 4 講時	
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現	2	長岡龍作	後期 金曜日 4 講時	
東洋・日本美術史基礎講読	日本近世絵画資料講読	2	杉本欣久	前期 金曜日 5 講時	
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文研究	2	長岡龍作	後期 金曜日 5 講時	
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡龍作 杉本欣久	前期 火曜日 3 講時 前期 火曜日 4 講時	
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡龍作 杉本欣久	後期 火曜日 3 講時 後期 火曜日 4 講時	
東洋・日本美術史各論	美術と宗教思想	2	長岡龍作	前期 月曜日 3 講時	
東洋・日本美術史各論	美術と宗教思想	2	長岡龍作	後期 月曜日 3 講時	
東洋・日本美術史各論	奈良の仏教絵画史	2	谷口 耕生	通年集中 その他 連講	
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本欣久	前期 水曜日 3 講時	
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本欣久	後期 水曜日 3 講時	
東洋・日本美術史講読	美術資料を読む	2	杉本欣久	後期 木曜日 2 講時	
東洋・日本美術史講読	日本美術資料研究	2	長岡龍作	前期 木曜日 2 講時	
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡龍作 杉本欣久	前期 火曜日 2 講時	
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	長岡龍作 杉本欣久	後期 火曜日 2 講時	

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LB35402 科目ナンバリング：LHM-ART201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画史

2. Course Title (授業題目)：Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。

一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in Est Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つけ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of each era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1 ー
- 3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2 ー
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー
- 5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー
- 6 回目 聖徳太子信仰と美術 一画題研究 3 ー
- 7 回目 平安京と鎮護国家の美術 一平安時代 1 ー
- 8 回目 浄土教と法華経の美術 一平安時代 2 ー
- 9 回目 絵巻物 1(縁起絵巻) 一平安時代 3 ー
- 1 0 回目 絵巻物 2(物語絵巻) 一平安時代 4 ー
- 1 1 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1 ー
- 1 2 回目 吉祥画と蓬莱山信仰 一画題研究 4 ー
- 1 3 回目 禅の興隆と水墨画 一室町時代 2 ー
- 1 4 回目 禅の興隆と道釈人物画 一室町時代 3 ー
- 1 5 回目 「魚」を描く意味 一画題研究 5 ー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LB45403 科目ナンバリング：LHM-ART201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現

2. Course Title (授業題目) : Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation

3. 授業の目的と概要：古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : If you overview the history of Japanese art from ancient times, you can see that many arts were born out of relationships with faith. Because religions that envision an invisible world need arts that visualizes it. In this course, among the religious arts created in Japan, I focus on sculptures in particular. I explain the essential relationship between religion and art through introducing the arts that the human spirit created.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。
- (2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。
- (3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) Students gain basic knowledge in Japanese art history.

(2) Students learn the basic methodology of art history research.

(3) Students learn the knowledge and method, especially about sculpture research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクション—仏像とは何か？
2. 釈迦の表象—仏像と仏舎利
3. 釈迦如来への信仰と表現
4. 亡き人のための造像
5. 薬師寺の美術—薬師如来への信仰と表現
6. 弥勒への信仰と表現
7. 観音菩薩への信仰と表現
8. 靈驗観音の寺
9. 平等院鳳凰堂—阿弥陀如来への信仰と表現
10. 天の役割と表現
11. 地藏菩薩への信仰と表現
12. 神像の出現
13. 肖像の表現と役割
14. 彫像がみちびく世界観
15. 課題

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LB35501 科目ナンバリング：LHM-ART204J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世絵画資料講読

2. Course Title (授業題目)：Training to read documents related to the paintings in the Edo era

3. 授業の目的と概要：日本近世絵画史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『都林泉名勝図会』などの版本および実作品に付された賛文の基礎を学ぶ。さらに寺社の縁起や画家の伝記に関して、調査方法を獲得する。

他専修生の受講生も歓迎。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides a training program to read "Miyako Rinsen Meisyou Zue" and "Gajyou Youryaku" which are documents related to the paintings of the Edo era.

5. 学習の到達目標：

美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read documents related to the paintings in the Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 『都林泉名勝図会』を読む

9 回～14 回 画賛を読む

15 回 読解テスト

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Rea

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LB45501 科目ナンバリング：LHM-ART204J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：東洋・日本美術史論文研究
2. Course Title (授業題目)：Study on the papers of Oriental and Japanese art history
3. 授業の目的と概要：東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジюмеとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students take up basic research papers of Oriental and Japanese art history and carefully read them. One person give a presentation about contents of papers at each class, showing pictures and documents. Participants will read the paper in advance and discuss the content after the presentation.
5. 学習の到達目標：
東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students learn the methods to research through reading basic papers on Oriental and Japanese art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. イントロダクション—東洋・日本美術史研究の方法論
 2. パイロット発表
 3. パイロット発表
 4. 発表準備
 5. 発表準備
 6. 発表準備
 7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 15. 総括と講評
8. 成績評価方法：
出席 [50%]・発表内容 [50%]
9. 教科書および参考書：
対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。
10. 授業時間外学習：参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。
Participants should carefully read the paper in advance.
11. 実務・実践的授業/Practical business：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：長岡龍作

杉本欣久

コード：LB32307 科目ナンバリング：LHM-ART205J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目) : Theory and practice of handling artworks
3. 授業の目的と概要：作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Preparation of art works
5. 学習の到達目標：
美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「対面授業」です。
ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. ガイダンス
 2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
 3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
 4. 「掛軸」の基礎と取り扱い 1
 5. 「掛軸」の基礎と取り扱い 2
 6. 「屏風」の基礎と取り扱い 1
 7. 「屏風」の基礎と取り扱い 2
 8. 篆書(ハンコ)を読む
 9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
 10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
 11. 「仏像」の基礎と取り扱い
 12. カメラの撮影と画像の使用
 13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
 14. 博物館・美術館見学
 15. 取り扱い復習
8. 成績評価方法：
出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書：
資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
11. 実務・実践的授業/Practical business : ○
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
12. その他：
3セメ(前期)のみの受講は認めない。必ず4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。
基本的にグループ学習であることから、最低限の協調性が必要となる。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Lab

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時, 後期 火曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡龍作

杉本欣久

コード：LB42305 科目ナンバリング：LHM-ART205J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of handling artworks
3. 授業の目的と概要：作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Preparation of art works
5. 学習の到達目標：
美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
 1. 博物館・美術館見学
 2. 和鏡の複製を作る 1
 3. 和鏡の複製を作る 2
 4. 和鏡の複製を作る 3
 5. 顔料と染料、箔の取り扱い
 6. 美術作品の梱包ー「掛軸」と「和鏡」の梱包ー
 7. 調書の作成 1ー作品の観察ー
 8. 調書の作成 2ー解説についてー
 9. 調書の作成 3ー調査方法と記録の取り方 1ー
 10. 調書の作成 4ー調査方法と記録の取り方 2ー
 11. 博物館での調査
 12. 展覧会の裏側「展示」を考える ー実地学習・藤崎ー
 13. 江戸時代の画家を調べる
 14. ミニ展覧会
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書：
資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：
4セメ(後期)のみの受講は認めない。必ず3セメ(前期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。
基本的にグループ学習であることから、最低限の協調性が必要となる。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester : 5 単位数 : 2

担当教員：長岡龍作

コード：LB51308 科目ナンバリング：LHM-ART301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目) : Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、「日本美術史」研究の成立史を概観した後、奈良時代の大仏造立を取り上げ、その意義を述べる。そして、その後は大仏造立が生み出した仏教思想との関わりから、以降の時代の美術とその意義を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と美術の関係を理解する。
- (2) 美術に投影された世界観を理解する。
- (3) 表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2) Students understand the world view projected on art.

(3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクション—「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 「日本美術史」のはじまり 1 「日本美術史」前史
3. 「日本美術史」のはじまり 2 「日本美術史」の成立
4. 「日本美術史」のはじまり 3 「日本美術史」の展開と相対化
5. 大仏の世界 1—盧舎那仏と釈迦如来
6. 大仏の世界 2—盧舎那仏と不空羂索観音
7. 善財童子の旅—善知識を訪ねる 1—文殊菩薩
8. 善財童子の旅—善知識を訪ねる 2—観音菩薩
9. 善財童子の旅—善知識を訪ねる 3—普賢菩薩
10. 鑑真と仏像 1—盧舎那仏と不空羂索観音
11. 鑑真と仏像 2—盧舎那仏と薬師如来・千手観音
12. 空海と仏像 1—盧舎那仏と大日如来
13. 空海と仏像 2—胎内の法身
14. 比叡山の密教
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LB61306 科目ナンバリング：LHM-ART301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期は、東大寺大仏と清涼寺釈迦の関係が導く宗教的な意義について述べた後、その後の宗教美術について、先の二者の関係を踏まえた観点から探る。さらに、清涼寺釈迦と関係の深い北宋時代の美術についても論じる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world.

5. 学習の到達目標：

- (1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
- (2) 造形に投影された世界観を理解する。
- (3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.
(2)Students understand the world view projected on art.
(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクションー「信仰と造形」をめぐる基礎的問題
2. 海を渡った釈迦如来一奮然の目指したこと 1
3. 海を渡った釈迦如来一奮然の目指したこと 2
4. 海を渡った釈迦如来一奮然の目指したこと 3
5. 顕密融合の伽藍 1ー法成寺と撰関期の美術
6. 顕密融合の伽藍 2ー法勝寺と院政期の美術
7. 顕密融合の伽藍 3ー中尊寺と院政期の美術
8. 東大寺復興一重源の目指したこと 1
9. 東大寺復興一重源の目指したこと 2
10. 叡尊・忍性と仏像 1ー釈迦如来
11. 叡尊・忍性と仏像 2ー文殊菩薩
12. 叡尊・忍性と仏像 3ー弥勒菩薩
13. 北宋美術の諸相 1ー杭州
14. 北宋美術の諸相 2ー寧波
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [80%]、出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像一祈りと風景』（敬文舎）2014 年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：谷口 耕生

コード：LB98824 科目ナンバリング：LHM-ART301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：奈良の仏教絵画史
2. Course Title (授業題目)：History of Buddhist painting in Nara
3. 授業の目的と概要：古代から仏教文化の中心地だった奈良には、各時代にわたって描き継がれた仏画の重要作品が数多く伝わっている。こうした奈良の地に視点を据えて古代から近世に至る仏画作品の展開を概観し、その絵画技法や図像、絵画工房、安置儀礼空間の問題などを考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nara has been the sacred center of Buddhist culture since ancient times. Countless masterworks of Buddhist painting have been produced throughout the ages in this region. Showcasing Buddhist paintings produced and enshrined in Nara that span in date from the Tenpyō period to the modern era, I will take up such topics as painting technique and iconography, painting workshops, and the ritual spaces and enshrinement rites of Buddhist painting.
5. 学習の到達目標：
①絵画技法の継承と伝播、②図像の受容と変容、③絵仏師の工房制作、④礼拝空間で担う機能の問題など、日本仏教絵画史研究の中心課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Developing a grasp of the central themes of art historical research into Buddhist painting, including:
 1. Painting techniques—Traditions and transformations;
 2. Iconography—Its receptions and transformations;
 3. Production contexts—Individual masters
7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義レジュメを配付し、代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターによって提示する。
 1. ガイダンス
日本の古代中世絵画史研究において奈良の仏教絵画が担う重要な位置づけを確認。
 2. 法隆寺金堂壁画研究の最前線
飛鳥白鳳期の仏教絵画をの最高傑作である法隆寺金堂壁画について、最新の光学的調査の成果も交えながら、その絵画技法や図像の問題を明らかにする。
 3. 天平絵画の彩色技法
聖徳太子唐本御影、絵因果経、鳥毛立女屏風や香印座など正倉院宝物の絵画作品を通じて、日本仏教絵画の源流ともいふべき奈良時代の絵画技法について考察。
 4. 奈良時代の儀礼と仏画
法華堂根本曼荼羅および薬師寺吉祥天像の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 5. 南都の平安仏画と宋代図像
達磨寺仏涅槃図と法隆寺北斗曼荼羅の考察を通じて、院政期の奈良を代表する仏画に宋代図像の影響が顕著に認められることを指摘する。
 6. 南都仏画と天平復古
平安時代後期に描かれた東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、南都の教学復興期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 7. 高山寺伝来の南都系白描図像
京都・高山寺には東大寺戒壇院扉絵図像をはじめとする奈良ゆかりの白描図像が伝来しており、その背景に華嚴教学を通じた東大寺と高山寺の密接な交流があったことを指摘する。
 8. 南都の浄土図
平安時代末期以降、奈良において阿弥陀浄土曼荼羅や補陀落山浄土図など多様な浄土図が生み出されたことを概観する。
 9. 春日宮曼荼羅の成立と展開
春日大社の社頭景観を描く春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を

明らかにする。

10. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

11. 玄奘三蔵絵と中世南都の仏教世界観

玄奘のインド求法の旅を描いた玄奘三蔵絵、玄奘の旅行記である『大唐西域記』をもとに描かれた法隆寺五天竺図の分析を通じて、画面に投影された中世南都の仏教世界観を読み解く。

12. 南都系聖徳太子絵伝をめぐって

四天王寺本・メトロポリタン美術館本・旧大蔵寺本など南都の絵仏師が制作に関わったとみられる聖徳太子絵伝を紹介し、その図像継承の問題について考察する。

13. 大乘院尋尊と室町時代の南都絵仏師

室町時代の興福寺大乘院門主尋尊が『大乘院寺社雑事記』に詳細に記した絵仏師の活動や組織の実態を紹介。

14. 久修園院宗覚と近世南都律宗の画僧たち

久修園院宗覚や宝山寺湛海など、江戸時代に仏画の傑作を数多く残した西大寺律宗所属の画僧の作画活動を紹介。

15. 近代における奈良美術の再評価

江戸時代末期に鵜飼徹定や冷泉為恭らによって奈良時代の仏画の価値が再評価され、明治期に日本画や洋画の制作にも天平仏画へのオマージュが投影されていく過程を紹介。

8. 成績評価方法：

レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

9. 教科書および参考書：

亀田孜『日本仏教美術史概説』（学芸書林、1970年）

有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂、1991年）。

『日本美術全集③ 東大寺・正倉院と興福寺（奈良時代Ⅱ）』（小学館、2013年）。

『日本美術全集⑤ 王朝絵巻と貴族のいとなみ（平安時代Ⅱ）』（小学館、2014年）。

『日本美術全集⑧ 中世絵巻と肖像画（鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』（小学館、2015年）。

10. 授業時間外学習：博物館・美術館・社寺などで実際に仏教絵画作品を見てもらいたい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LB53308 科目ナンバリング：LHM-ART301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つけ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵
- 3回目 狩野派の系譜(室町から桃山)
- 4回目 狩野派の系譜(江戸狩野)
- 5回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 6回目 京都の町絵師(俵屋宗達から宮崎友禅へ)
- 7回目 尾形光琳と乾山
- 8回目 日本刀とその精神
- 9回目 刀装具と鐔の意匠性
- 10回目 対外交易と長崎派
- 11回目 沈南蘋と南蘋派
- 12回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 13回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 14回目 京都の雪舟流と漢画の復古
- 15回目 雪舟流一長谷川派と雲谷流一

8. 成績評価方法：

レポートによる評価。

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LB63308 科目ナンバリング：LHM-ART301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：

歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つけ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 江戸絵画の「真」「贋」ー研究に立ちふさがる壁ー
- 2 回目 江戸と浮世絵 1
- 3 回目 江戸と浮世絵 2
- 4 回目 武士の絵画 1 ー鑑戒ー
- 5 回目 武士の絵画 2 ー暢神ー
- 6 回目 京都と円山派 1 ー円山応挙ー
- 7 回目 京都と円山派 2 ー応挙の門人たちー
- 8 回目 京都と四条派 ー蕪村、呉春とその門人 ー
- 9 回目 天下の台所・大坂の絵画
- 1 0 回目 好古家と考古学の黎明
- 1 1 回目 江戸の絵画 1 ー18 世紀の絵画状況と谷文晁の登場ー
- 1 2 回目 江戸の絵画 2 ー洋風画(司馬江漢・渡辺華山)ー
- 1 3 回目 江戸の絵画 3 ー渡辺華山「千山万水図」に描かれた景ー
- 1 4 回目 東北諸藩の画人
- 1 5 回目 伊藤若冲 ーその真実を探るー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本欣久

コード：LB64210 科目ナンバリング：LHM-ART304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術資料を読む

2. Course Title (授業題目)：Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要：「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは、「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現するため、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」するプログラムである。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかない。一般的には思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれ、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのように規定してしまえば「教育」の余地が失われることになってしまう。けれども、多くの人がそれを「実感」し、共有するためには「教育」が不可欠であり、それは「トレーニング」の方法次第で成し得ると講師は考える。

そこで本講では同じようにみえる類似した 2 作品を提示し、その中に存在する相違点を見出して指摘、発表していく実習形式をとる。作品比較を続けていけば、やがて「どちらが良い線か」「どちらが上手いか」などの「認識」が育まれてくる。これは美術史研究にとって不可欠な「スキル」であり、その先に「真贋」の判別にも必要な「鑑識眼」の獲得に結びつくのは言うまでもないだろう。

他専修生にとってもこのような授業は経験したことがないと思われるため、未開発の能力が開花する可能性もあるので歓迎したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides programs of training to read information on Japanese art work. It helps students learn about the differences between Japanese art work by comparison and appreciate them.

5. 学習の到達目標：

美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read information on art work and explain their thoughts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「オンライン授業」です。Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

予習で行ってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は視覚機器(プロジェクタ)を使用し、講師が作品について論じる。

1 回目 ガイダンス

2 回目 絵画

3 回目 刀装具

4 回目 絵画

5 回目 刀装具

6 回目 絵画

7 回目 和鏡

8 回目 絵画

9 回目 和鏡

10 回目 絵画

11 回目 陶磁器

12 回目 絵画

13 回目 受講生による作品の比較発表

14 回目 受講生による作品の比較発表

15 回目 受講生による作品の比較発表

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを分析し、その質疑応答によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

人前で話すのが苦手であったり、めんどろであるといった人には不向きである。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010年代）

10. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

単位を取得するためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡龍作

コード：LB54210 科目ナンバリング：LHM-ART304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本美術資料研究

2. Course Title (授業題目)：Study on art materials

3. 授業の目的と概要：古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「石山寺縁起」七巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）」（元曉絵三巻・義湘絵四巻）、「慕帰絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students take up the picture scrolls important for considering the relationship between ancient medieval Buddhist thought and art, and carefully read the captions (narrative texts). Through that, students try to read the meaning contained in the painting expression. The object of the study is mainly the picture scrolls of "Jisha-engi" and "Sosi-eden".

5. 学習の到達目標：

絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students acquire the skill for understanding painting expression and narrative texts, and the skill for finding related materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. イントロダクションー授業の目的と方法論

2. パイロット発表

3. 発表準備

4. 発表準備

5. 発表準備

6. 発表準備

7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論

15. 総括と評価

8. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

イントロダクションの際に指示する。

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：月・火・金の 13:00～17:00 (但し、授業時間外)

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡龍作

杉本欣久

コード：LB52211 科目ナンバリング：LHM-ART305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. インTRODakションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

INTRODUCTION の際に紹介する。

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：長岡龍作

杉本欣久

コード：LB62210 科目ナンバリング：LHM-ART305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：

美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. インTRODakションー美術史研究の方法論

2.パイロット発表

3.パイロット発表

4.発表準備

5.発表準備

6.発表準備

7.発表準備

8.発表準備

9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

INTRODUCTIONの際に紹介する。

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

